



モア通信 No.08

2014年12月14日

“モアネット・ルネッサンス”を目指して

インターネットで外国人福祉委員養成講座が受講できます

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

モアネット運営委員 小澤 亘

①養成講座での講義内容をこのページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB 補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などをお書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員として登録。外国人福祉員登録証をご送付いたします。

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアの設立～

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉員の必要性和活動内容について～

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

第6回 障害者に対する生活支援の理解

第7回 相談支援活動の心構えについて

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

モアネットが発足して早8年がたちました。立ち上げの際、メディア会見の壇上で、加藤博史先生や田中宏先生の脇に並ばされたことを、今でも良く覚えています。それまで、在日コリアン問題とは直接的な接点がありませんでした。会場に集まった熱気溢れる人びとがとてもまぶしく見えました。

以来、大学側からの支援者という立場で、コツコツと活動に関わらせていただき、少しずつ学ばせていただきました。モアネットは私にとっては、まさに、マイノリティ問題の学びの場(ハッキョ)であり、市民活動の可能性について常に考えられる貴重な場です。

モアネットの魅力は、なによりも、立場や組織の違いを越えて、熱心で魅力的な人材が集まり、繋がり、そして、地道に地域活動が続けている点です。そして、在日コリアン高齢者という身内の問題に留まらず、中国帰国者高齢者たちや他のマイノリティ問題にも目を向けていくオープンな姿勢です。もちろん、ミーティングやイベントの後に、連れてっていただいたコリアンレストランで、韓国料理やマッコリに舌包みを打ちながらの団欒も私を惹きつけてやまないものでしたが。

しかし、2、3年前ごろから、モアネットも、壁にぶつかりつつあると感じ始めました。ちよつと元気が無いのです。これは、どのようなボランティア団体でも起こることです。活動当初の熱い動機を維持することはボランティアにとって、たいへん難しいことだからです。自分のこととして、親族の支援に心を砕かねばならない年齢層の方は、問題意識は高いものの、生活に忙しく、外国人福祉委員として活動を継続することが難しくなっているのです。また、支援する側の高齢化も課題となります。こうして外国人福祉委員の「担い手不足問題」がモアネットでも浮上してきたのです。

昨年度の7月の総会では、コミュニティソーシャルワーカーとして有名な勝部麗子さん(豊中市社会福祉協議会地域福祉課長)をお呼びして、わたしたちが元気になれるようなアイデア出しのワークを行いました。これによって、運営委員会のメンバーも、大きな元気をもらいました。

もっと何かできる。わたしたちがトライしなければならないことがもっとあるのではないか。そんな議論から、昨年の夏が明けたころの運営委員会の場で、「演劇という手法を外国人福祉委員さんの学びのワークに使ってみては」というアイデアが生まれたのです。

→つづきは4ページへ

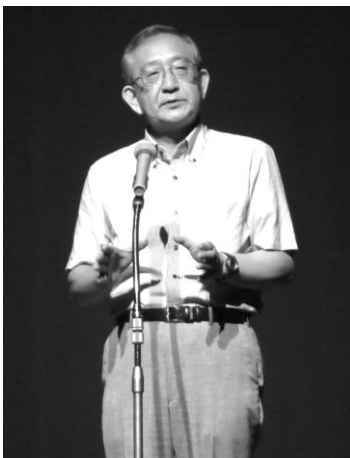
< 総会の様子 >



< 龍谷大学短期大学部セミナー >



炭谷陶化自治連合会会長挨拶



小澤運営委員より、
「子育ては親育て・みのりのもり劇場
どらりん劇団」の協力で、寸劇が
完成したことをお伝えしました。

総会報告

2014年7月6日、龍谷大学響都ホール会議室でザ京都において、第8回総会が開催されました。

2013年度活動報告と会計報告についてはともに承認されました。5、6ページに内容を掲載していますのでご覧ください。

続いて、2013年度事業計画案と予算案が読みました。今年度の活動の中心として、モアの活動を広く知ってもらうだけでなく、在日コリアンや在日外国人への理解を得るための取り組みをしようと、関係機関とのネットワークを充実させること、さらに、モアネットの養成講座やさまざまな媒体を通してこの活動を広く知ってもらい、外国籍住民への理解と支援の輪が広がるように努めたいと発表され、事業計画・予算案共に承認されました。

次に、役員改正案が発表されました。共同代表であった琴基都氏が亡くなられたことにより、在日本朝鮮人総聯合会より紫松枝氏が推薦され、承認されました。

最期に、運営委員の岡野英一氏より、外国人福祉委員活動実施要項の、今回追加された「活動に伴う費用負担に関する内規」について説明され、今後さらに活動が活発化するように支援していきたいと締めくくって下さいました。

～1 世オモニの生活を寸劇で披露しました～

龍谷大学短期大学部社会福祉学科国際福祉コース

開設記念セミナーにて

グローバル化・高齢化する社会の福祉課題

共に生きる地域を目指して

総会後、同ホールで、龍谷大学短期大学部社会福祉学科国際福祉コース開設記念セミナーにて、モア福祉委員活動について寸劇を行いました。

まず、2011年度の東九条高齢者実態調査の時モアネットに多大なご協力いただいた、東九条陶化学区自治連合会の炭谷会長から、自治連合会が長年地域で続けてこられた、ボランティアによる高齢者の食事会「はざくら会」についてお話いただき、地域での地道な取り組みの必要性を伝えられました。

その後、外国人福祉委員が関わっている東九条の在日コリアン高齢者の生活を寸劇で紹介し、日本人との習慣の違いや、コリアン高齢者の思いを紹介しました。

今回で2回目となった、寸劇公演。運営委員の立命館大学小澤教授より、この寸劇が完成するに至った経緯を伝えました。劇の作成、出演と全面的に協力をいただいた「みのりのもり劇場・どらりん劇団」は、普段は寸劇ワークショップを通して子育て応援をしているグループです。今回、ハルモニの生活を劇にすることで、日本社会で生きづらさを抱えているハルモニの様子や思いを、劇を使って分かりやすく伝えることができました。



第1場面「ハルモニの家」

新人福祉委員が、初めてハルモニのおうちを訪問しますが、いきなり、「ご飯食べていき」と言われたり、「ダンナの稼ぎはいいのか、子どもは何人いるのか」などと聞かれ、福祉委員は「なんでこんなに根掘り葉掘り聞かれるんだろう」ととまどいます。でも、このハルモニのように、読み書きの機会を得られず大人になった在日コリアンは、見聞きした情報を頼りに生きてきたので、人との情報交換が日常会話だったり親愛表現なのです。ハルモニを支援するためには、まず互いのことを知り合うという双方向のコミュニケーションが大事なのです。

第2場面「デイサービスにて」

この日本人職員は、高齢者は当然、子どもの歌や遊びを知っているのだという思い込みで、ハルモニにも日本の遊びを促しますが、それらを経験することのなかったハルモニは「そんなん好かん、知らん」と固辞します。そのわけを理解できず、ハルモニに輪に入ってもらおうと必死になる職員に愛想を尽かして、ハルモニは帰ってしまいます。支援する側は、個々の持つておられる背景や思いを受け止めることが大事だと知らされます。



第3場面「区役所で」



生活保護の申請に福祉委員と区役所を訪れたハルモニですが、なぜか印鑑を押そうとしません。理由を聞かず、ハルモニのためと思って早く手続きを進めようとする福祉委員に激怒するハルモニ。「自分の家は、日本政府の言っている内容がわからずに『ハンコ』を押してしまったため、朝鮮で土地を奪われ、生活の糧を求めてやむなく日本に連れてこられた。日本語の読み書きができず、どれだけ苦労してきたか」と吐露します。ハルモニの思いを聞いて、ようやく気づかされた福祉委員は、初めて「金さん」ではなく、「ハルモニ！（親しみを持った言い方）」と呼びかけ、ハルモニは涙を流して喜び、互いに抱き合うのでした。

森さん、伊豆田さん感想

（1ページのつづき）

3年前ほどから、右京区では、活発なまちづくり活動が展開しています。その特徴は、建前ではない本来的な市民参加型まちづくりの追求です。市から区へと移管された予算では、新たな活動として利用ができる、ひも付きではない予算は200万円が相場というところでしょう。ところが、右京区では、1000万円を越える寄附金を地元企業から集めて、元気の素（活動資金）を作りだしました。もちろん、右京区制80周年という区切りの年だったことありますが、町衆の心意気が大きな原動力になっていると思います。町づくり会議のあり方も大きく変わりました。伝統的な組織と新しい活動メンバーが一堂に会したワークショップは壮観です。こうした活動を支える市民側のパートナーのひとりが、今回、モアネットと寸劇コラボをした「子育ては親育て みのりのもり劇場」の代表の伊豆田さんです。ちなみに彼女は、右京区まちづくり活動の一環として生まれた市民インターネットテレビ局「右京コミュニ TV」の仕掛け人でもあります。

「みのりのもり劇場」は、森さんや西田さんのような名女優（皆、もとは素人）をメンバーとする「どらりん劇団」という組織を持っています。その目指すところは、「笑い」（だいぶ吉本的な要素が濃厚です）をベースした寸劇を中核に据えたワークショップで、従来、地域活動などには参加してこなかった層を元気づけ、その背中を地域社会へと押していくことです。まさに、モアネットが悩んでいたところではありませんか！「モアネット」と「みのりのもり劇場」との出会いはいわば、必然だったのです。

そのコラボレーションの成果は、今年3月29日に開催された外国人福祉委員研修会でのワークショップ、7月6日の総会の際に龍谷大学響都ホールでおこなわれた寸劇で明らかです。不幸にして参加出来なかった方は、編集録画ビデオも出来あがっていますので、モアネット事務局にお声掛けください。必見の価値あります。

その後、この寸劇は大阪でも上演され、高い評価を得たとのこと。とても喜ばしいことですが、そもそもの目的は、外国人福祉委員活動の活性化と地域の理解の増進、地域ネットワークの強化にあります。寸劇の中身を練り上げていくこと、新しい脚本を創作し地域活動に活かしていくことが、今後、求められていくでしょう。

ところで、大学側から活動に携わっている者として、いま、新たにチャレンジを開始していることがあります。京都市や地域包括支援センターと連携して、孤立高齢者問題の解消に向けて、地理情報システムというコンピューター技術を駆使してアプローチしようとするものです。加藤博史先生をヘッドとする科研費プロジェクトです。

大学側メンバーも、引き続き、熱心で魅力的なボランティアの皆さんと連携しながら、地域問題の乗り越えに向けて、知恵を絞り、力を尽くしていきたいと思います。

2013年度の活動(2013年4月～2014年3月)

1. 外国人福祉委員派遣事業

登録している外国人福祉委員による、在日外国人高齢者・障害者たちの生活支援活動を行いました。具体的には、電話による相談受け付けや、関係機関からの依頼に応じて、自宅を訪問し、安否確認や話し相手・傾聴、生き甲斐支援、そのほか必要時における支援を行いました。また、定期訪問の必要な、あるいは孤立しがちな対象者については、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら見守りを行ってきました。本年度は、20人の福祉委員が77人に対して1027件の生活支援活動を行いました。

2. 外国人福祉委員の研修

現在活動している外国人福祉委員を対象に、懇談会(9月:総会2部の勝部氏の講演DVDを見て、2グループに分かれてケーススタディ)を行いました。

また、3月には外国人福祉委員養成講座を行い、NPO法人「子育ては親育て・みのりのもり劇場どらりん劇団」の協力を得て、在日コリアンの歴史と生活状況について寸劇を行ったあと、グループディスカッションを行いました。

また、外国人福祉委員に対して、スタッフと随時振り返りを行いました。

3. 外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けて

1月に第7号通信を発行し、総会報告、活動報告等を掲載しました。

運営委員会をおおむね1ヶ月に1度行い、大学研究者も含め、活動の充実化に向けて話し合いました。また、長寿福祉課とは随時連絡を取り合い、相談に乗っていただきました。

4. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

7月の総会2部で、豊中市社会福祉協議会地域福祉課長 勝部麗子氏を迎えて、「排除しない社会づくり」についての講演と、「支援の輪づくり」のためのワークショップを行いました。

また、3月の外国人福祉委員養成講座について、京都新聞・毎日新聞に活動紹介と講座案内記事を掲載してもらい、当日は、啓発講座を兼ねて、医療・福祉関係機関や行政、一般市民にも参加いただきました。

5. 他の外国人支援団体との連携

京都市国際交流協会の「外国人支援ネット」や、「在日コリアン高齢者生活支援ネットワーク・ハナ(ハナネット)」に事務局メンバーが参加・協力し、外国籍市民や在日コリアン支援グループと情報交換を行いました。

2013年度支援内容内訳

	対象者		77
	外国人福祉委員		20
	活動件数		1027
	延べ件数		2901
福祉サービス紹介・指導	保険・介護	受付相談	3
		サービス利用・内容	7
		その他	0
	生活保護		1
	高齢者福祉		0
	障害者福祉		0
	その他の保険福祉サービス		0
	小計		11
生活・生きがい等	生活相談		228
	家族関係相談		430
	人間関係相談		180
	生きがい相談(趣味活動)		156
	こころの相談		54
	安否確認		907
	言語・コミュニケーションの問題		30
	民族文化・歴史等の問題		63
	その他		180
	小計		2228
健康関係	健康(病気・体調)相談		540
	栄養食事関係相談		28
	病院受診・入退院手配など		0
	医療通訳		1
	その他		0
	小計		569
関係機関との連絡調整	区役所	福祉事務所	5
		市民窓口等	0
		その他	0
	自治会(その他地域団体)		0
	民生委員/老人福祉委員		0
	社会福祉協議会		2
	ケアマネジャー・ヘルパー等		36
	その他		50
	小計		93
	緊急時対応	通報先	病院・診療所への連絡
ケアメナなど関係者連絡			0
消防車出動要請			0
警察への通報			0
急病の世話		0	
家事の世話など		0	
その他		0	
小計		0	
合 計			2901

京都モアネット役員

【顧問】

小澤 亘(立命館大学教授)

王 清一(在日本大韓国民団京都府地方本部団長)

金 学福(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)

田中 宏(一橋大学名誉教授)

鄭 禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ顧問)

仲尾 宏(京都造形芸術大学客員教授)

水野直樹(京都大学人文科学研究所教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学短期大学部教授)

金 周萬(韓国民団京都府本部福祉事業推進委員会委員長)

紫 松枝(京都民族教育対策委員会事務局長)

朴 錫勇(札の辻診療所所長、NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事長)

【運営委員】

金 秀煥(朝鮮総連南山城支部組織部長)

金 洋子(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

宋 基和(大韓国民団京都府地方本部南支部副支団長)

南 珣賢(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

岡野英一(龍谷大学教授)

加藤博史(兼任)

紫 松枝(兼任)

金 周萬(兼任)

朴 錫勇(兼任)

【会計】

金 洋子(兼任)

【会計監査】

崔 忠植(希望の家カトリック保育園前園長)

【事務局長】

鄭 明愛

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア収支決算書

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	金 額		
1、収入の部			
京都市助成金		1,120,000	
賛助寄付金	686,500		
個人会費	34,000		
団体会費	35,000	755,500	
雑収入	331		
預金利息	94	425	
当期収入合計 (A)		1,875,925	
2、支出の部			
1)福祉委員派遣事業に係る経費			
・報酬費	572,500		
・上記に関する交通費	108,760		
・通信費	253,301		
・事務費	15,285		
・賃借料	600,000		
・水道光熱費	152,156		
・雑費	3,672		
・消耗品費	2,557	21,708,231	
2)福祉委員養成講座			
・講師料	80,000		
・雑費	3,614	83,614	
3)ネットワーク強化			
・通信費	11,520		
・会場費	13,100		
・雑費	5,932	30,552	
当期支出合計 (B)		1,822,397	
当期収支差額 (A)-(B)			53,528
前期繰越差額			711,312
次期繰り越し額			764,840

★事務所が仮移転しています★

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町 12

京都コリアン生活センターエルファ内

京都外国人高齢者・障がい者生活支援

ネットワーク「モア」(京都モアネット)

TEL 075-681-2721

FAX 075-693-2555

Email kyotomorennet@yahoo.co.jp

郵便振替口座:00990-4-314429

加入者名:京都外国人高齢者障害者

生活支援ネットモア

▼
(み)
編集後記